

○ 東京五輪開催に向けて5カ年計画で出荷2万頭体制めざす— TOKYO X

東京のブランド豚TOKYO Xの流通組合であるTOKYO X - Association (植村光一郎会長、会員数146社・320店舗)は21日、東京・港区の東京プリンスホテルで14年度総



会を開いた。こしは協会設立15周年目を迎える節目の年。13年のTOKYO Xの肉豚出荷頭数は8,247頭に上ったが、今年度は年間出荷1万頭体制を目指し、共同生産出荷に関する協議や、流通・販売等の検討会、枝肉目合わせ

会など開催し、TOKYO Xを通じた食育事業にも参加してゆく。また2020年の東京オリンピックを見据えた対策協議委員会を開く方針だ。総会では役員改選も行われ、佐藤進一(京王プラザホテル八王子事業部)理事・監事の新任と植村会長ら役員の新任を決めた。

総会にあたって植村会長(=写真)は「前期の肉豚出荷は8,247頭となった。前々期が9千頭をわずかに下回っていたため大幅に頭数を減らすことになった。これは一般豚と同様に夏場の暑さの影響で産出数が大きく減ったことによるもの。PEDが流行しているがTOKYO Xに関していまのところ影響は受けていない。今期は飼養頭数1万頭を目指して生産・供給に当たる計画を立てている。また、今期から供給される豚は飼料米を指定飼料のなかに15%添加して与えており、TOKYO Xの特長として(一般豚に比べ)脂肪融

点が2%ほど低く、口触りが良く、甘い香りがあるが、これがより強調されるものと確信している」と報告。そのうえで「今期は創立15周年に当たるが、20周年に向けての第一歩と考えている。現在は1万頭規模を目指しており、東京オリンピックが開催される2020年までに2万頭の増頭を計画している。それにあたって5カ年計画をつくり、協会創立20周年がオリンピックの1年前にあたるため、それまでに計画を実行してゆく。またオリンピックを目指す中でTOKYO Xに関する情報発信も東京だけでなく世界に向けて発信してゆけるよう力強く、一步一步進んでゆきたい」と挨拶した。

2020年東京オリンピックに向けた活動では、創立20周年に当たる2019年に向けて2万頭規模に増頭する5カ年計画を設ける。このなかでは、青梅畜産センターの母豚配布の増強体制を進めるほか、TOKYO X生産組合との連携を通じて共同計画目標を定め、需給バランスのとれた豚肉の供給を行ってゆく。さらに、オリンピックの指定食材に認定に向けた啓蒙活動やブランド認知活動では食育や地産地消、食料自給率を絡めながらブランド普及を目指す。併せて外国人観光客に向けた普及活動も展開してゆく方針だ。

総会ではこのほか、「トウキョウ X」の系統造成やTOKYO Xの生産に大きく貢献してきたTOKYO X生産組合顧問の榎戸武司氏ら3人に東京都知事賞および東京都農林水産振興財団理事長賞が授与された。

○ 千葉県内の複合商業施設で初の屋外クッキングショー、延べ300人が試食—CPI

カナダポーク・インターナショナル(CPI)主催の屋外クッキングショーがこのほど、千葉県印西市の複合商業施設「BIG HOP ガーデンモール印西」で開かれた。クッキングショーでは、「電子レンジで作る簡単ローストポーク」「カナダポークの冷しゃぶ」の

作り方を紹介。調理された2品は、会場に集まった延べ300人に振る舞われた。また、カナダにまつわるクイズショーや、同施設の“ゆるキャラ”の登場でイベントは盛り上がった。CPIが屋外クッキングショーを開催するのは今回が初めて。

○ フードディフェンス検討会、企業の第三者検証の中間報告を精査—農水省

食品を介する犯罪を未然に防ぐフードディフェンスのあり方を検討している農水省の「食品への意図的な毒物等の混入の未然防止等に関する検討会」(フードディフェンス検討会)

の第2回会合が26日、東京・霞が関の同省会議室で開かれる。農薬混入事件の発生を受け、冷凍食品メーカー内に設置した第三者委員会がまとめた中間報告の中身を精査する。